

大山乳業農業協同組合の取り組み

酪農指導部を中心とした専門特化したチーム編成をつくり、県、飼料メーカー、搾乳機器メーカー、それぞれに必要なに応じて参加してもらう。

<経営コンサルチーム>

経営状況の取得、評価。

<自給飼料支援チーム>

自給飼料の様々な支援、WCS、飼料米の給与試験等も実施。

<飼養管理指導チーム>

飼養環境の改善、飼料計算、牛群検定を活用した繁殖成績の改善。

(具体的に実施している例として)

牛群更新率の調査、適正育成率の計算、廃用状況の調査、対策案の提示。

<牛群更新率>

経産牛更新頭数 ÷ 経産牛頭数

例えば経産牛頭数50頭除籍頭数20頭の場合

除籍頭数20 ÷ 経産牛頭数50 = 40%

必要育成頭数は除籍頭数の倍40頭

で現状維持

除籍頭数を減少させるか？

育成頭数を増やすか？

導入するか？

更新率の減少は自家育成保留の減少や導入頭数の減少につながる

原因を掌握し更新に対する対策と現状維持をするための対策を検討する。

CC事業(適正育成率)

<年間更新率>

年間経産牛更新頭数 ÷ 年度当初経産牛頭数

<年間育成妊娠頭数>

更新経産牛頭数 × 1.25

<適正育成率>

年間更新率 × 平均初産月齢 ÷ 12

<適正育成頭数>

適正育成率 × 年度当初経産牛頭数

酪農経営において、不安定要素の一つは育成頭数。

今年、何頭雌が生まれるか？

年間の適正な育成頭数は何頭か？

過剰な育成頭数は更新率にも影響を及ぼすし不足する場合は、導入リスクが発生する。

廃用の理由を掌握するには、牛群検定情報を活用する。

牛群検定情報を大分類としそこから詳細を聞き取り記帳をしてもらう。

具体的な対策は優先順位を決定して実施する。

除籍台帳

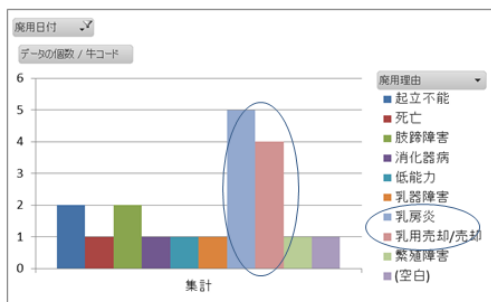
病名・分類ごとに並び替えて、原因と対策を検討する

検定	除籍月日	病名	分類	死因	分娩日	産次	分娩後日数	備考
1142	H26.1.7	起立不能	産後疾患	産	H25.12.30	6	8	
1352	H26.2.3	乳房障害	慢性乳房炎	肉	H25.2.22	3	346	
1155	H26.2.3	繁殖障害	繁殖障害	肉	H24.10.19	5	472	
1207	H26.2.3	繁殖障害	繁殖障害	肉	H24.11.21	5	439	
1377	H26.2.4	繁殖障害	繁殖障害	肉	H24.10.13	2	479	
1382	H26.2.13	白血病	その他	死	H25.8.31	3	166	
1462	H26.2.14	起立不能	産後疾患	産	H26.2.5	2	9	
1225	H26.2.19	繁殖障害	繁殖障害	肉	H24.11.16	5	460	
1362	H26.2.19	繁殖障害	繁殖障害	肉	H25.2.15	3	369	
1417	H26.2.19	繁殖障害	繁殖障害	肉	H24.8.7	2	561	
1418	H26.2.26	股裂き	運動器病	産	H25.12.20	3	68	
1531	H26.3.4	肢蹄障害	運動器病	産	H25.6.4	1	273	
1351	H26.3.21	乳房障害	慢性乳房炎	肉	H25.4.17	3	338	
1029	H26.3.21	繁殖障害	繁殖障害	肉	H24.9.23	6	544	

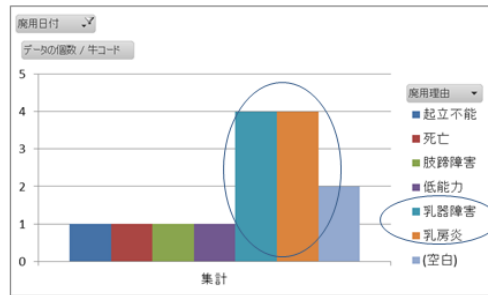
除籍状況の比較(A牧場)

		乳房炎	繁殖障害	肢蹄故障	消化器病	起立不能	低能力	死亡	更新率
H24年	A牧場	20%	24%	2%	5%	7%	18%	24%	37%
	県平均	18%	27%	11%	9%	11%	10%	13%	31%
H25年	A牧場	11%	36%	7%	2%	10%	14%	21%	38%
	県平均	15%	27%	9%	7%	11%	10%	13%	32%

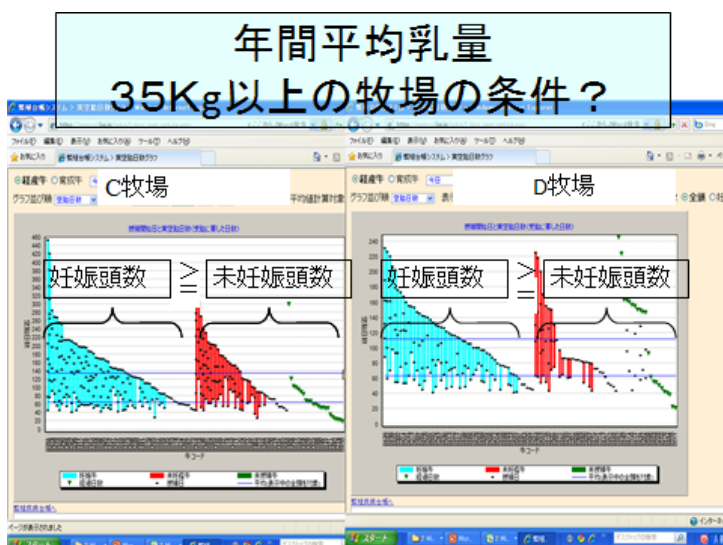
平成24年廃用理由



平成25年廃用理由



牛群検定情報を活用した繁殖成績改善例



平均乳量は繁殖成績と同時に検討する。

乳牛に負担をかけずに平均乳量を上げるには繁殖成績を改善することが最も重要。繁殖成績の改善は、仕分けが必要。

地域ぐるみの指導体制の確立

- 1 優良事例と考えられる農家・組織の名称
バリモー会（バリバリ儲ける会の意）

- 2 現在の具体的活動
酪農家の婦人を中心に毎月1回の研修会・優良農家視察
牛群検定成績表の見方を中心に、普段から思っている疑問・質問を解決していく。

- 3 これまでの成果
平成24年12月から開始して、平成27年7月で28回目となる。

- 4 活動のきっかけ
酪農家の婦人から、牛群検定情報を活用した儲けるための研修会を実施してほしいと要望があった。開始当初は3名であったが、現在は5名の酪農女子会。
牛群検定の活用を中心に大山乳業農協・普及所・家畜保健所・共済獣医師・全酪連で「いまさら聞けない酪農用語」など、さまざまな質問・疑問に答える。

視察報告例

題名	バリモー会（バリバリ儲ける会の意）視察研修				
日時	平成26年6月20日（金） 11:00-14:00	場所	小前牧場 琴浦町光好		
出席者	杉浦玲子、村上達子、小谷佐由美、今吉（大山乳業） 小前孝夫（視察先）・伸仁（しんじ）、栗原（西部普及）				
内容	<p>（概要）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 小前牧場を視察し、仕事の流れの極意や整理整頓の意識を勉強した</td> </tr> <tr> <td>2 大山乳業指導課の整理整頓を勉強した</td> </tr> </table> <p>（経緯） 5月8日バリモー会で牛群検定の勉強会実施後、次回6月の勉強会について小前牧場（琴浦町）への視察要望強く、その方向で調整することになった。</p> <p>（研修内容） ①牛舎の整理整頓、②自給飼料生産、③酪農経営への取組など。 バリモー会としては、牛舎を見ながら、質疑応答形式でいろいろな話をしたいとの希望であった。</p>			1 小前牧場を視察し、仕事の流れの極意や整理整頓の意識を勉強した	2 大山乳業指導課の整理整頓を勉強した
1 小前牧場を視察し、仕事の流れの極意や整理整頓の意識を勉強した					
2 大山乳業指導課の整理整頓を勉強した					

1 牛舎視察（小前孝夫氏説明）



牛舎訪問前に靴カバー



手前小前孝夫氏から概要説明

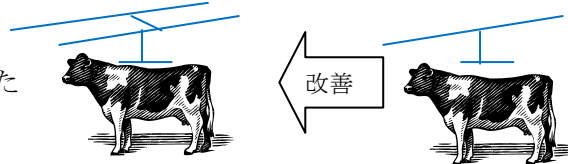


左小前氏、右今吉課長（大乳）

- ・成牛舎は平成元年建設。屋根 FRB 製で劣化してきており、今年 5 月中旬に補助を活用して、屋根の強化と暑熱対策として白色の遮熱塗料を塗布した。
- ・暑熱対策で細霧装置を H25 年に使用していたこともあるが、湿度が高くなり良くないと判断して止めている。
- ・昨年ドロマイト石灰屋根塗布の防暑効果を実感しており、今年白色塗料使用の実施を決断した。

二軸カウトレーナー

排糞・排尿でお尻が汚れないようにする訓練器具で良かった



・繁殖盤

繁殖盤を本年 5 月から活用している。

・耕畜連携

耕種農家の堆肥散布をする代わりに、稲わらを確認している。粗飼料らや敷料として利用している。

・イタリアン収穫作業体系

秋、ダンプ 1 台 3t/10a の元肥→追肥（減 K 化成肥料）20kg/10a→蛋白含量を狙った収穫を心掛けている

・ヘルパー連絡用ホワイトボード

きれいな字で見やすく丁寧に記入してあります →

- ・乳頭清拭用布：おばあさん手作り。きちんと洗濯。
- ・その下に数本の鎌が刃の向き揃えて置いてあります。



- 2 酪農指導課での5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の取組み
 ・酪農指導課（大山乳業全体での取組）の机の中の文房具の整理



薄いウレタン樹脂を文房具の形に切り取り、文房具を収めている。会員は大乳職員から定置管理などの説明を受け、自身への反省をしているようでした。

- 3 昼食時の座談会（バリモー会会員、小前氏、今吉、栗原）
 昼食は焼き肉「美好」で600円の定食（たくさんの種類あり）を頂いた。そこで、会員の皆様の愚痴や苦勞話に花が咲きました。
 その中で、小前氏が「集落から嫌われないように、牛舎に来るのが楽しくなるように3S（整理・整頓・清掃）をしましょう。すなわちそれが、地元の牛乳を喜んで飲んで頂ける基礎になります。」との言葉に皆が反省しきりでした。



（今後の予定）

次回は

平成26年7月15日（火）10:00-12:00 西部家保

大山乳業今吉課長に「牛群検定情報の見方（継続）」について講演して頂き、意見交換する。

毎月の報告例

題名	バリモー会（バリバリ儲ける会の意）研修		
日時	平成27年5月7日（木） 10:00-13:00	場所	西部家畜保健衛生所 会議室
出席者	杉浦玲子、村上達子（以上伯耆町）、小谷佐由美（日野町）、西谷佳代子（南部町）、今吉課長（大山乳業）、阿部（全酪連）植松・中口（西部家保）、増田（共済獣医師）、森本専技主幹、栗原（西部普及）		
内容	<p>（概要）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>牛群検定成績の見方（今吉説明）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 標準乳量 2 MUN（乳汁中尿素態窒素）と乳蛋白質 3 体格や乳房についての遺伝能力 <p>以上について勉強した。</p> </div> <p>（詳細）</p>		

1 標準乳量

異なる条件下にある乳牛の検定日量を、同じ土俵で比較するために補正した乳量
 北海道の2産、4-6月分娩、搾乳日数120日を
 基準とし飼料給与診断や暑熱対策の効果判定など
 に利用される

2 MUN (乳汁中尿素態窒素) と乳蛋白質について
 適正 MUN (8~14)

┌ コーンサイレージ主体：低い傾向
 └ 牧草サイレージ主体：高い傾向

非分解性蛋白質 (バイパス)	分解性蛋白質	難分 解性
-------------------	--------	----------

↓
 乳蛋白質

↓
 MUN

※乳蛋白質と MUN の関係 (別紙参考資料)

※以前は増乳効果あるとのことで高蛋白飼料 (高コスト) を給与していたが、
 余剰な蛋白は弊害 (疾病等) が大きいので、適正飼料に移行している。
 コスト低減化と長命性を図る。

※乳牛のエサで重要な蛋白源：メチオニンとリジンのアミノ酸バランス

※栄養素でのポイント リスク要因

- | | |
|------------|----------------|
| (1) 糖・デンプン | ルーメンアシドーシス |
| (2) 蛋白質 | アンモニア過剰 (毒性あり) |
| (3) 脂肪添加 | ルーメン発酵異常→乳脂肪低下 |

3 体格や乳房についての遺伝的改善の勧め

(1) 蹄の角度

蹄が薄く蹄掌を痛めやすい〜つま先立ち

(2) 飛節の角度

飛節角度がある〜角度なく直線的
 (立ち座り時に痛めやすい)

(3) 寛骨の位置

遺伝的改良のため寛骨の位置が後に移動する傾向
 がある。そうなると、後肢も後ろにずれ、X脚②な
 りやすく、乳房が圧迫される。

(4) 乳頭位置

内側に寄ると、搾乳しにくくなる
 種雄牛の遺伝的能力により改善していくこ
 とが可能です。

(来月の予定)

次回は平成 27 年 6 月 18 日 (木) 10:00-
 西部家保会議室。

<追記>

ドロマイト石灰屋根塗布について、来週から実施
 することで合意。まずは、小谷牧場から。
 動噴・攪拌機・容器ともに大乳準備。

